ヤブツバキ	にほんでのよびかた	津葉木	ほかのなまえ	ヤマツバキ、厚葉木	31

なまえのゆらい

はっぱのとくちょうから「厚葉木(あつばき)」からきたとも、ツヤツヤするといういみの「津葉木(つばき)」によるともいう。
かん字の「椿」はちゅうごくでは霊木(れいぼく)の名でツバキといういみは日本でのこっくんである。

木のとくちょう

ヤブツバキのはっぱはピカピカしている。いけがきにつかうこともあるが、け虫のひがいがおおい。
花はかれるとくびごとおちて、ぶし(むかしのたたかう人)はきらったという。
じゅくすとくろいたねがでてくる。
花がさくのは2月から4月。5まいある花びらは赤、白でやや、まるくひらくのがとくちょう。

そのほか

ヤブツバキをもとにしてたくさんの花がつくられた。
かみのスタイリングや天ぷらあぶらにつかう、あぶらをとることができる。

ヤブツバキ

和名	藪椿	31
別名	ツバキ、ヤマツバキ	

分類				
	科（APG分類）	ツバキ科	属	ツバキ属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・葉が濃い緑色で光沢（艶）がある意味で「艶葉木」から転訛した。
・強い葉っぱの木の意味で「強葉木」から転訛した。
・刀の鍔（つば）に似ており「鍔木」から転訛した。
など諸説あり。
・ヤブツバキの学名は**「ジャポニカ・カメリア」**です。

樹木の特徴

・本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑小高木。普通5～10mだが、15m超すものもある。成長は遅く、寿命は長い。
海岸沿いに多く、山地にも自生し、庭木や防風林、防潮林として植栽される。
・花は両性花で、花期は11～12月、または2~4月
枝先に赤色、まれに淡紅色や白色の花をつける。
花弁は5個で平開しない。雄しべは多数あり、花糸は白色で葯は黄色。雌しべは1個で直立し花柱の先は3～4裂する。散るときには花全体がまとまって落下する。

・果実はさく果で、径2～2．5cmの球形で、緑色のまま熟し、裂開、中から2～3個の黒褐色の種子が出てくる。
・樹皮は褐灰色～黄褐色で滑らか。
・葉は互生し、葉身は長楕円形～卵状長楕円形
縁には細かい鋸歯が並ぶ。葉表は濃緑色で無毛、裏面は淡緑色で無毛。

用途・その他

・ツバキの種子から採取した油を椿油（カメリアオイル）と呼ばれ、ホホバオイル、オリーブオイルと並んで、世界三大オイルにあげられる。
・椿油の成分はオレイン酸が多く含まれ、コレステロ
疾患の予防、便秘の改善に役立ちます。
・江戸時代の武士は、椿の花がまとまってぽとり落ちる様子を「首から落ちる」と連想されるので嫌ったとか、また、お見舞いの花としては縁起が悪いとして不向きだと。
・カメリア化粧品

作成年月日　2021，09，17